

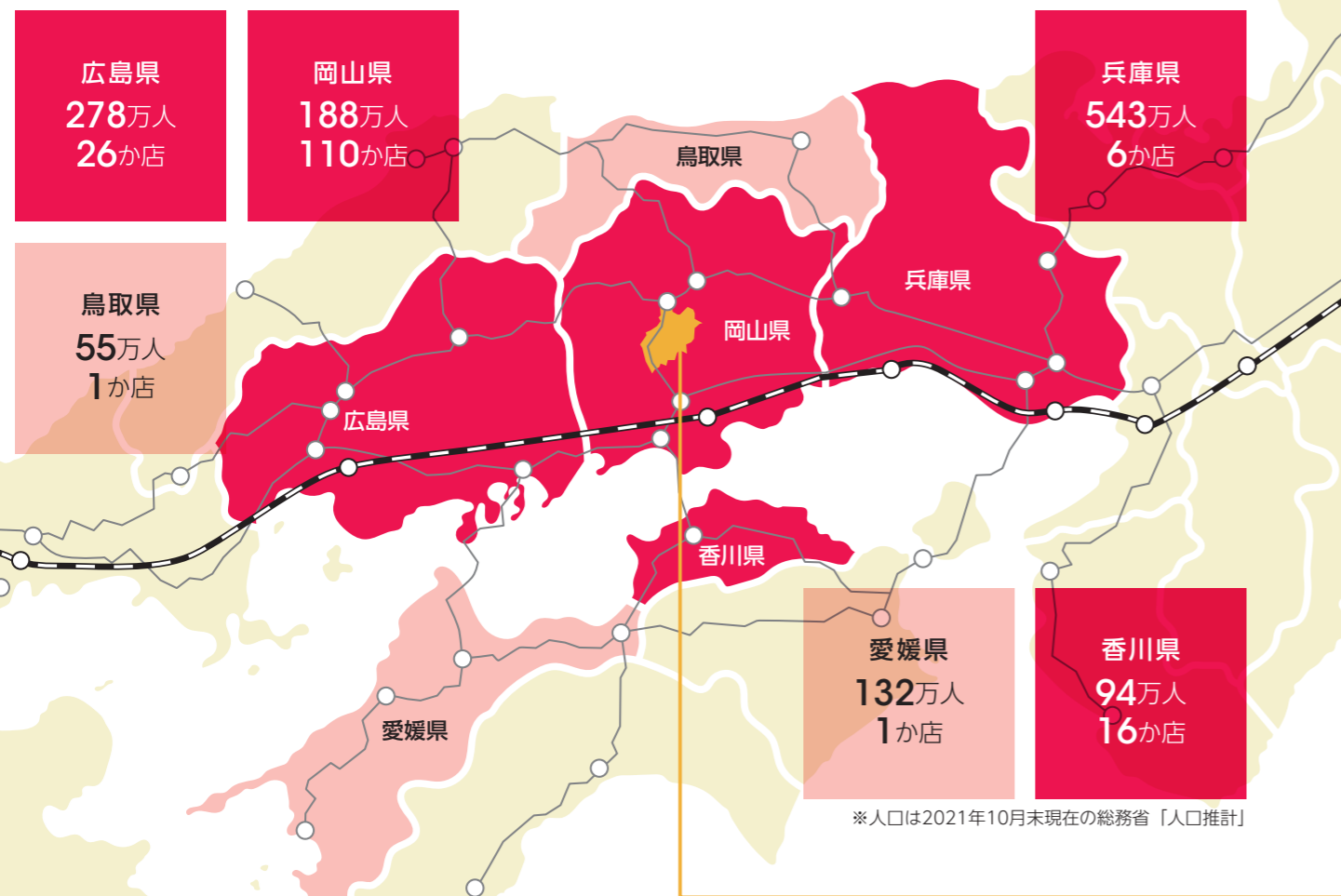
## 中国銀行グループを支える事業基盤

中国銀行グループは、古代吉備の国に該当する地域を基盤に発展してきました。吉備の国はたたら製鉄など独自の技術や文化で栄え、その力を怖れた大和朝廷による当地への征伐が、昔話「桃太郎」の起源とされています。

また、瀬戸内海は古来より国内外を結ぶ海上交通の大動脈で、戦後はその輸送利便性から太平洋ベルトの一角として経済成長を支えました。1988年には瀬戸大橋が開通、四国との結びつきを強めながら、岡山県を中心に広島県、香川県、兵庫県などを含む東瀬戸内経済圏は今なお発展の歩みを続けています。

中国銀行グループはこのような広域経済圏を営業基盤に、広域地銀グループとして活動しています。

## 中国銀行グループの事業エリア



### 日本有数のクロスポイント、岡山

岡山県は、東西に延びる2本の高速道路（山陽自動車道、中国自動車道）と南北をつなぐ高速道路（瀬戸中央自動車道、岡山自動車道、米子自動車道）が交わる、本州と四国のクロスポイントで、高速道路2時間圏人口は1,600万人を数えます。

岡山県の営業倉庫面積は中四国最大規模となっており、近年は物流拠点の新增設が相次いでいます。また、物流企業だけでなく、全国のメーカーや流通企業が西の拠点として数多く進出し、非常時には東日本地域への配送拠点にもなっています。

### 温暖な気候と少ない災害

岡山県は、降水量1mm未満の日が年間を通じて多く、「晴れの国」と呼ばれ、瀬戸内地域は雨が少なく温暖な気候に恵まれています。一方、北部では森林資源が豊かな水源を生み出し、工業用水の給水能力は中四国・九州でもトップクラスです。

県内に活断層はほとんどなく、岡山県は今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が低いとされています。加えて、中国・四国山地に挟まれ、台風の被害が少ない地域です。このため、災害への耐性が求められるデータセンターの立地先としても選ばれています。



吉備中央町

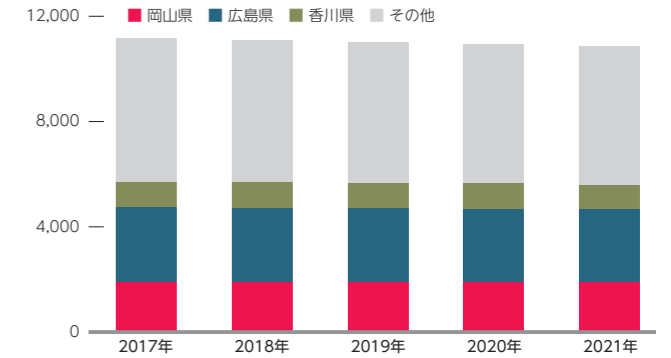
## 中国銀行グループの営業基盤

### 人口は中四国地方の半分

中国銀行グループが営業基盤とする東瀬戸内圏の人口（岡山県、広島県、香川県の合計）はおよそ6百万人。中国四国地方の半分強を占め、地方圏の中で中核的な役割を担っています。

本店を置く岡山県では40%を超える高い貸出シェアを有し、県内トップバンクとして多くのお客さまとお取引をいただいています。また、古くから店舗網を有する備後地区（広島県東部）、四国地区（香川県・愛媛県の一部）においても、一定のシェアを有しております。

### 中国四国地方の人口推移 (単位: 千人)



資料：総務省「人口推計年報」毎年10月31日の推計値

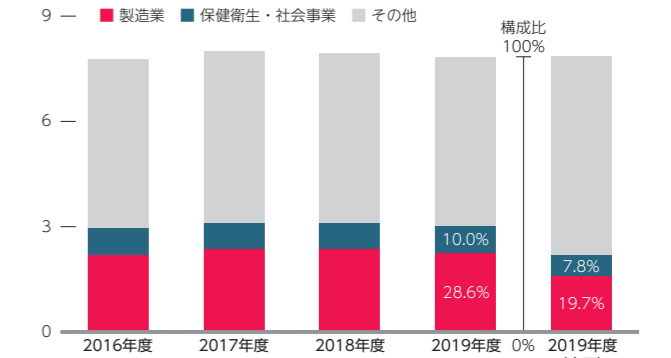
## 岡山県の産業構造

### 製造業に強み

岡山県は南部に全国でも有数の「水島臨海工業地帯」を有し、石油、化学、鉄鋼、自動車など幅広く製造業が集積しています。ほかに地場産業として、繊維（ジーンズ・ユニフォーム・学生服）、耐火物、農業機械なども盛んです。このため、全国に比べ製造業の割合が高く、域内人口に左右されず稼ぐことのできる移出産業が強みとなっています。

また人口当たりの医療機関数も充実するなど、保険衛生・社会事業のウェイトが高く、医療、福祉分野を通じて高齢化やヘルスケアなどの課題解決にポテンシャルを秘める地域です。

### 岡山県の名目GDPの推移 (単位: 兆円)



資料：岡山県「岡山県県民経済計算」、内閣府「国民経済計算」



「岡山のへそ」  
吉備中央町に課題解決のヒント

### サステナブルな地域社会実現に向けて

**地方創生** 吉備中央町が真ん中に位置する吉備高原は、近年さまざまな研究により、地盤の強固さが明らかになっています。「災害に強い」という観点から、「吉備中央町に首都を」という声もあります。そのような大それた話ではなくとも、中枢機能を移転することは、一極集中リスクを回避し、地方創生につながります。

**まちづくり** 吉備中央町は2022年3月、全国初となる革新的事業連携型の国家戦略特別区域（デジタル田園健康特区(仮称)）として指定されました。この特区は、デジタル技術の活用によって、人口減少、少子高齢化など、特に地方部で問題となっている課題に焦点を当て、地域の課題解決の先駆モデルを目指すものです。